

JARIC NEWS

2026 January

Index

Japan Mobility Show 2025開催
「ワクワクする未来」を体感する11日間

第48回全国フロントマン
選抜技術競技会の開催結果

第48回全国フロントマン選抜技術競技会
【最優秀賞受賞者インタビュー】

TECHNICAL INFORMATION

「SGW搭載による整備作業への影響」

Japan Mobility Show 2025開催 「ワクワクする未来」を 体感する11日間



日本自動車工業会（自工会、片山正則会長）は、2025年10月30日～11月9日に東京ビッグサイト（東京都江東区）で「Japan Mobility Show 2025」を開催した。今回は「ワクワクする未来を、探しに行こう!」がコンセプト。「モビリティの未来のワクワク（# FUTURE）」「モビリティそのものにワクワク（# CULTURE）」「モビリティのビジネスにワクワク（# CREATION）」をテーマに「モビリティの未来」を体感できる企画が揃った。

FUTUREでは、10年後の近未来の技術や生活の変化を表現。空飛ぶクルマや自動運転で荷物や人を運ぶクルマなど、生活に変化をもたらす最新のモビリティのほか、日々進化するものづくりの技術などを間近に触れることができるようにした。

CULTUREの目玉は、文化とクルマの変遷を表した「タイムスリップ・ガレージ」。東京電気自動車（のちのプリンス自動車工業）「たま電気自動車」やいすゞ自動車「FFジェミニ」、トヨタ自動車「プリウス」など、戦後から現代までの名車が並んだ。



伝統文化の「山車」が最新モビリティに進化する日も近いかもしれない



韓国メーカー「Kia（キア）」は電気自動車（EV）バンを展示した



会場外でも車両展示イベントが行われた



二輪車も電動化の時代に入っている



「Mobility Culture Program」には懐かしいクルマが並んだ



中国メーカー「BYD」が商用車部門に初出展した



輸入車メーカーも出展。
写真はBMW「iX5 HYDROGEN」



日野自動車のコンセプトカー
「poncho」(ボンチョドット)



高い人気を誇る、スズキ「ジムニー ノマド」

CREATIONには、未来に向けた取り組みを行うスタートアップ企業や大学が出展。「モビリティ」という共通のテーマに向けて、さまざまな切り口で開発や研究を行う企業が取り組みを発表した。また、トークセッション企画も充実。特別セッション「クルマ愛」では、自工会の片山会長をはじめとした正副会長が語り合ったほか、想い入れのあるクルマやバイクを展示した。

人気企画の「アウトオブキッサニア in JMS2025」も実施。国産メーカー各社を中心に、「レーシングメカニックの仕事」「電動モビリティを組み立てる仕事」「カーディーラーの整備士の仕事」などの体験プログラムを展開。クルマの生産から流通に携わる仕事の体験を通して、子どもたちにモビリティに興味をもってもらい、ものづくりの楽しさを実感してもらった。

今後、モビリティがどのように変化していくのか、人々の生活にどのようにかわってくるのか。日進月歩で進化する自動車業界。未来に想いをはせて、ワクワクと期待が高まる企画が盛りだくさんだった。



タイで生産しているピックアップトラックの
いすゞ自動車「D-MAX」



日本最高級のショーファーカー、トヨタ自動車
「センチュリー」が注目を集めた



次世代モビリティも数多く出展された



二輪車メーカーも出展して、各社のコンセプトを
披露した



本田は「陸・海・空」をテーマにロケットなどを
展示した

第48回 全国フロントマン 選抜技術競技会 が開催されました。



参加者の皆さん

精鋭フロントマン12名が修理見積の 技術を競いました。

J A 共済自動車指定工場協会〔愛称:JARIC(ジェイエイリック)〕には、全国約1,600の自動車整備・修理工場が会員として加盟しています。

JARIC主催の「第48回全国フロントマン選抜技術競技会」は、各都道府県選抜のフロントマン(※)が、日頃培った見積技術を競うもので、令和7年11月7日(金)に、JA共済幕張研修センター(千葉県)にて開催されました。

JARICでは、フロントマンの見積技術の向上を図り、優良かつ迅速な修理を行うことを目的に、「全国フロントマン選抜技術競技会」を昭和49年から毎年開催しております(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった令和2年度、令和3年度を除く)。

競技会の冒頭、主催者を代表して挨拶したJARICの高間 専逸会長は競技会参加者に対し、「第48回全国フロントマン選抜技術競技会に全国各地から12名の皆さま方にご参加いただき、誠

にありがとうございます。本日は日頃の業務の延長線として取り組んでいただき、成果を存分に発揮していただければと存じます。」とエールを送りました。

競技は、フロント、リア損傷の2台の事故車両を使用した、損害修理の見積書作成と、フロントマンとしての知識を問う学科競技が実施され、競技会参加者はこれまで培ってきた技術や知識を思う存分発揮しました。

また、競技会翌日には、競技に使用した事故車両の見積解説と、新型車(ホンダ フリード)の構造の解説が実施され、技術や知識を深めるとともに、最新の技術や知識を習得しました。

審査委員による厳正な審査の結果、福岡県の花田将宗さん(株式会社宗像オート整備工場)が最優秀賞に輝いたのをはじめ、5名のフロントマンが受賞の栄誉に輝きました。

JARICでは、「JA共済の指定工場として、真のサービスを提供し、組合員・利用者の皆さまの満足度向上に資する」ために、自動車整備・修理工場のレベルアップを図り、JAの自動車共済事業に貢献できる優秀なフロントマンの育成を目指してまいります。

これからも、組合員・利用者の皆さまの安心・安全のために高品質な技術力とサービスを提供するJA共済自動車指定工場をよろしくお願いいたします。

(※)フロントマンは、JAの自動車共済加入者等の車両をお預かりした際に、指定工場の顔として、修理・点検箇所の説明や見積書等の作成を行うとともに、工場内では、作業指示者・工程管理者の役割を担っています。



損傷診断を行う参加者の皆さん

第48回全国フロントマン 選抜技術競技会の競技結果

※敬称略

- 最優秀賞
福岡県 花田 将宗 株式会社宗像オート整備工場
- 優秀賞
島根県 岩田 直也 有限会社加茂自動車工業
福井県 松本 晶利 有限会社松本自動車工業
- 敢闘賞
熊本県 田口 潤一 有限会社旭車体
佐賀県 淵野 隆彦 株式会社カークリエイティブ

※最寄りの工場はホームページでご確認いただけます。(https://www.jaric.jp/)



審査講評 平林審査委員長
(〈一社〉全国技術アジャスター協会 会長)

今回の競技を拝見し、特に良かったと感じた点は、車両の損傷箇所を見る前に、配付資料を読み込んでから実車を確認し損傷の全体像を把握しようとする姿勢が見られたことです。

見積内容についても、基本をしっかりを押さえられていると感じました。今後も、より精度の高い見積り作成に取り組んでいただければと思います。



最優秀賞 花田さん



優秀賞 岩田さん



優秀賞 松本さん



敢闘賞 田口さん



敢闘賞 淵野さん

第48回全国フロントマン選抜技術競技会 最優秀賞受賞者インタビュー



最優秀賞受賞された花田 将宗さん

「第48回全国フロントマン選抜技術競技会」最優秀賞を受賞された花田 将宗さん（宗像オート整備工場）のもとを訪ね、受賞の感想や仕事に対する思い、今後の抱負についてお話を伺いました。

**最優秀賞受賞おめでとうございます!!
ご感想をお聞かせください!**

今回が2度目の全国競技会でした。前は優秀賞をいただきましたが、今回はその上の最優秀賞を受賞することができ、驚きとともに大変光栄に思っています。2回目ということで、前回以上の結果を取らなければならないというプレッシャーはなく、むしろ1度参加していたため、落ち着いて取り組むことができました。

見積技術向上に向けて心がけていることはなんですか?

普段の業務では、フロントマンとしての見積業務と現場での钣金作業を兼任しています。見積業務においては、钣金作業で培った技術や知識が、計上漏れの防止に大きく役立っていると感じています。钣金技術をさらに高めることで、修理方法や損傷の全体像をより正確に把握できるようになりますので、常に技術の習得に努めています。

新しい技術習得に向けてどんなことに取り組んでいますか?

钣金塗装専門の月刊誌を購読し、最新

技術や自動車業界の動向を常に把握するよう努めています。また、業務の中で同業者との横のつながりを活かし、情報交換を積極的に行うことで、知識や技術の幅を広げるよう心掛けています。

お客様対応において気をつけていることをお聞かせください!

ご来店されるお客様は、事故によって大切なお車が傷付き、落ち込んでいることが多いので、まずは気持ちに寄り添うことを心掛けています。そのうえで、中古部品での交換、新品交換、または修理対応など、なるべくわかりやすく説明し、選択肢をご提示しながら、お客様のご希望に沿ったご納得のいただける最適な対応を心掛けています。

JAやJA損調の鑑定士との連携面で取り組んでいることについてお聞かせください!

当工場はJA共済の指定工場であるため、基本的には画像による見積りと電話での協定が中心です。しかし、円滑な協定を実現するため、毎年福岡県で開催される競技会や懇親会に参加し、鑑定士との交流を深めています。福岡県ではこうしたコミュニケーションの場が多く、日頃から顔を合わせる機会があるため、協定時にもスムーズに対応できていると感じています。

今後の抱負をお願いします!

钣金技術のさらなる習得はもちろん、お客様とのコミュニケーションスキルの向上にも努め、「ここに来れば安心」と感じていただける、頼れるフロントマンを目指して努力してまいります。

宗像オート整備工場

代表 時安 東城さんにお聞きました。

●経営理念について

当工場は、地域に密着し、お客様が安心して修理や車検、钣金をお任せいただける存在であり続けることを理念としています。「ここにお願いして良かった」「また利用したい」と感じていただける工場を目指し、常に品質とサービスの向上に努めています。宗像市は福岡市と北九州市の間に位置し、昔ながらの地元の農家の方々や転入されたサラリーマンの方など、さまざまなお客様が訪れます。農家の方とは友人のように気軽に会話することもあれば、サラリーマンの方には丁寧な言葉づかいを心がけるなど、地域性に合わせた柔軟なコミュニケーションを大切にしています。今後もこの「地域密着型」の姿勢を貫き、信頼される工場であり続けたいです。

●花田様の日常の仕事ぶりや今後の期待について

花田職員は、日々の業務において確実かつスピーディに仕上げる姿勢が非常に頼もしく、業務レベルが高いと感じています。また、車の安全性能や材質は年々進化していますが、技術力の維持・向上に努めており、不自由なく対応していると感じています。今後の期待としては、これまで以上に見積り技術を磨き、業務にして欲しいと考えています。さらに、他工場との連携を強化し、組織全体が発展できる体制づくりにも貢献していただけることを期待しています。

時安 東城社長と花田 将宗さん



SGW搭載による 整備作業への影響

ここ数年に発売されている新型車の多くは、テレマティクス機能（OTA※¹による車両機能のアップデートや遠隔での故障診断など）や車両ディスプレイとスマートフォンとの接続など、外部機器やクラウドとの無線接続が可能となっている一方、外部機器やクラウドを介して不正に車両をハッキングされる恐れがあります。

そのような状況の中、セキュリティ対策の強化が義務化※²されたことにともない、一部の無線接続可能な車両については、SGWという機能が搭載されていますので、その概要と対応方法について紹介します。

※1.Over The Airの略。車両ソフトウェアを無線通信で遠隔で更新する技術。

※2.国際基準（UN-R155やUN-R156など）では、サイバーセキュリティ管理体制の整備を行うことを義務付けており、日本では2022年7月から段階的に対応しています。（右表参照）

2022年7月～	OTAに対応した新型車への規制
2024年1月～	OTAに対応していない新型車への規制
2024年7月～	OTA対応の継続生産車の規制開始
2026年5月～	OTA非対応の継続生産車の規制開始

1 SGWとは

SGWとはSecurity Gateway（セキュリティゲートウェイ）の略称であり、外部から車両への不正アクセスを防ぐためにセントラルゲートウェイECU※に搭載されているセキュリティ機能のことです。

※通信速度の異なるECU同士を繋ぐ中枢ECU。各ECU間同士の信号はセントラルゲートウェイECUを介し、伝達される。

2 SGW搭載による整備作業上での影響

車両の電子制御化に伴い、一般作業や定期点検作業にて、スキャンツールの「作業サポート」や「アクティブテスト」などの機能を使用していると思いますが、SGW搭載車においては、汎用スキャンツールで対応できないケースがあります。

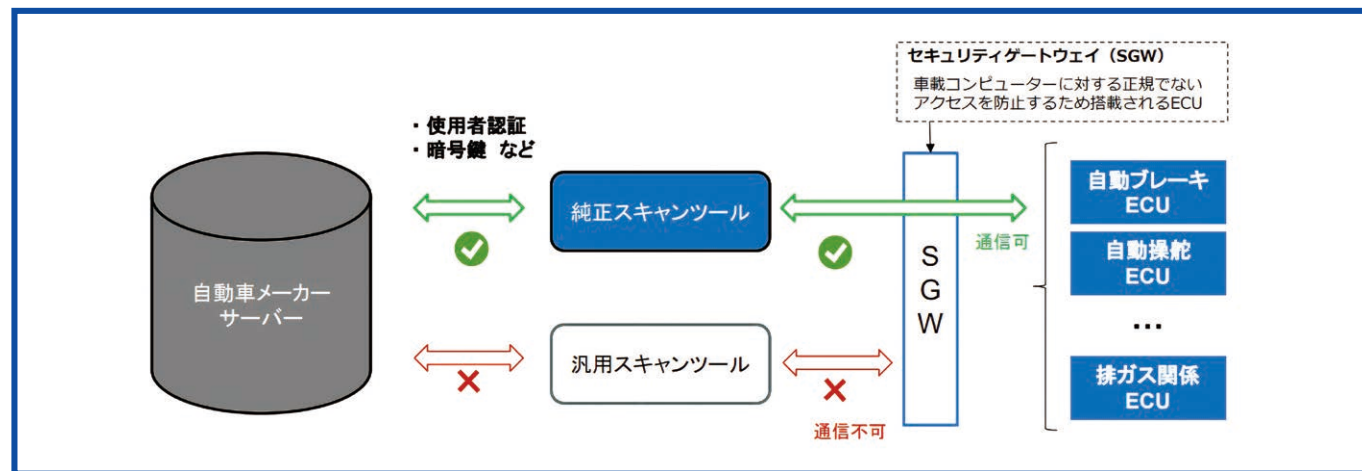
下写真では、日産 ノート（型式：E13、初度登録：令和3年3月）に汎用スキャンツール（BANZAI：MST3000）を接続し、作業サポートを実施しましたが、一部の作業（ミリ波レーダ調整、エンジンの作業サポート項目など）が表示されませんでした。



3 スキャンツールを用いた調整方法の概要

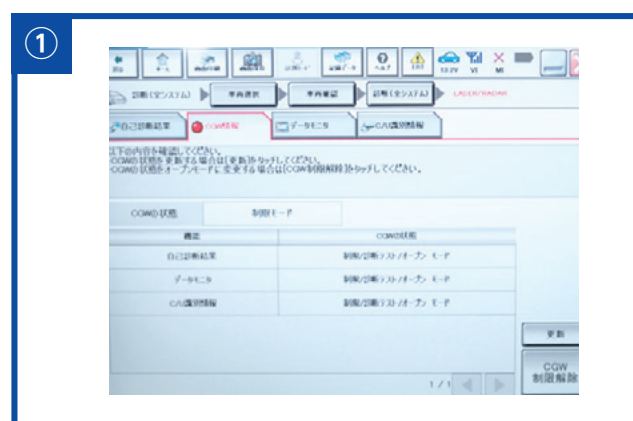
SGW搭載車については、自動車メーカーが車両への不正アクセスを防ぐため、下図（参考：国土交通省資料抜粋）のとおり、自社サーバを通じた「ID（スキャンツールの使用者認証）」と「PASS（暗号鍵を用いた作業の管理）」、「非純正スキャンツールでのアクセス拒否」などを導入し、一部機能を制限しています。

※SGWで制限されている作業を行うには、純正スキャンツールの購入、IDとPASSの取得が必要となります。

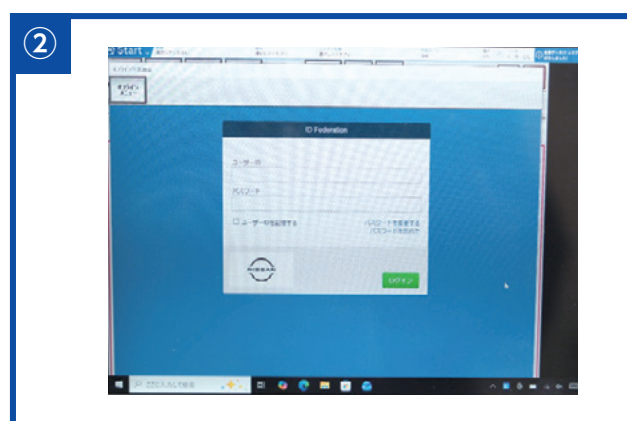


<参考：国土交通省資料抜粋>

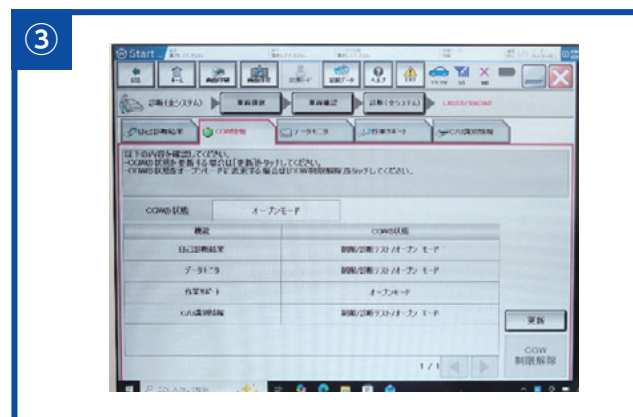
参考 純正スキャンツールによるミリ波レーダ光軸調整（日産 ノート 型式:E13 初度登録 令和3年3月）



CGW※（SGW）が制限モードであり、作業サポートが表示されません。

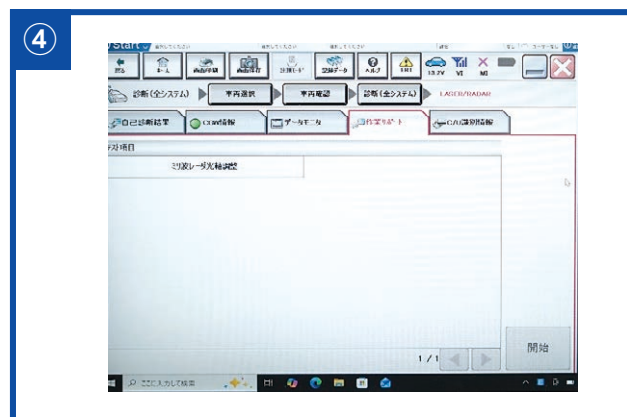


オンラインで日産サーバへアクセスし、ユーザID・パスワードを入力します。



CGW※（SGW）がオープンモードになり作業サポートが表示されます。

※Central Gatewayの略。日産のSGWの名称。

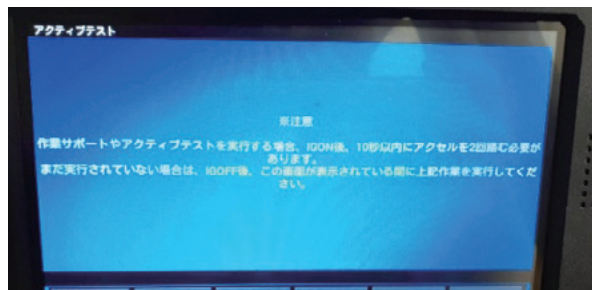


作業サポートにてミリ波レーダ光軸調整が選択可能となります。

4 汎用スキャンツールメーカーの対応

SGW搭載車の制限されている作業を行うためには、純正スキャンツールの使用に加え、メーカーからの「ID（スキャンツールの使用者認証）」と「PASS（暗号鍵を用いた作業の管理）」の付与が必須とされていますが、一部の汎用スキャンツールでも作業が可能な場合があります。

※下記に、汎用スキャンツール（2025年10月現在）の一部を紹介しますが、対応車種や対応可能な作業範囲などについては、必ず取引先の販売店などにご確認ください。



BANZAI

一部のメーカーについては、車両で特定の操作を行うことでセキュリティ制限が解除されます。



Bosch

SDA（セキュア ダイアグノシス アクセス）という機能を搭載しており、下記のメーカー（2025年10月現在）に対応しています。

- | | | |
|------------|----------|-----------|
| ・日産 | ・アウディ | ・ジープ |
| ・マツダ | ・アバルト | ・ボルボ |
| ・スバル | ・ランチア | ・ポルシェ |
| ・スズキ | ・ミニ | ・メルセデスベンツ |
| ・ダイハツ | ・アルファロメオ | ・スマート |
| ・インフィニティ | ・BMW | ・クライスラー |
| ・ルノー | ・フィアット | ・テスラ |
| ・フォルクスワーゲン | | |



Autel

ワーゲングループ、一部国産車に対応しています。

5 まとめ

令和6年10月よりOBD検査が義務化されていますが、SGW搭載車が特定DTCを検出（保安基準不適合）した場合、SGW対応のスキャンツール（純正品あるいは純正品と同等の機能を有する汎用品）を所持していない修理工場では対応できず、検査を完了することができません。

車検整備事業の約6割は、ディーラ以外（自動車整備白書令和5年度実績）で実施されていることを考慮すると、前述のような車両の入庫がディーラへ集中し、整備難民が発生する恐れがあります。

国土交通省でも整備難民問題は認識しており「第29回自動車整備技術の高度化検討会」にて、「純正スキャンツールの購入・レンタルしやすい環境の整備」、「汎用スキャンツールの機能向上と標準化」といった取組みを進めるよう議論が行われていますが、早期の対応は困難であるとの見通しも示されています。

今後販売される新型車にはSGWの搭載が義務化されることを踏まえると、従来のスキャンツールでは対応が難しくなる可能性があります。したがって、スキャンツール補助金などの制度を活用し、SGW対応スキャンツールの購入を検討する時期に来ていると考えられます。